

平成 26 年 5 月 26 日

会 員 各 位

構 造 懇 話 会
会 長 森 川 英 典

第 467 回 構造懇話会 平成 26 年度 幹事会および例会のご案内

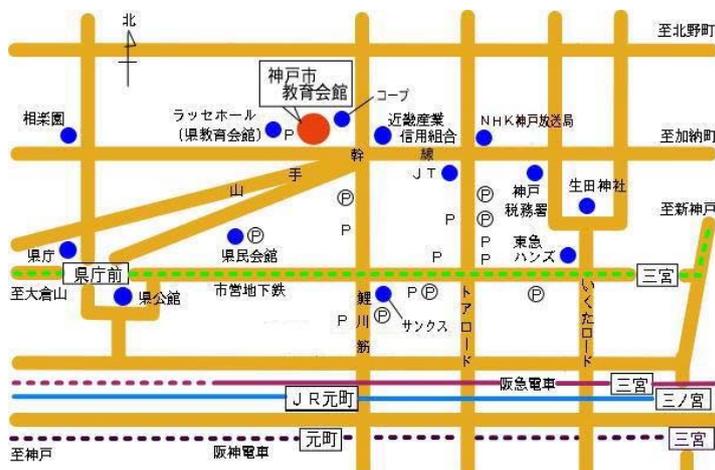
構造懇話会の運営に際しまして、日頃よりご支援賜り、誠に有難うございます。
標記の平成 26 年度 幹事会および例会を下記のとおり開催いたします。
つきましては、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 26 年 6 月 24 日 (火) 13:30～16:30
2. 場 所 **神戸市教育会館 404 号室**
神戸市中央区中山手通 4-10-5 TEL 078-222-4111
3. 議 題
 - 1) 幹事会 13:30～14:25
休憩 14:25～14:30
 - 2) 例会 ①部 14:30～15:25
『 塩害の要因となる飛来塩分の数値シミュレーションによる評価・予測手法 』
明石工業高等専門学校 都市システム工学科 助教 中村文則 氏
休憩 15:25～15:35
 - 3) 例会 ②部 15:35～16:30
『 橋梁製作における溶接技術の動向 』
高田機工株式会社 技術研究所 所長 鷹羽 新二 氏

[連絡先] 〒567-0877 大阪府茨木市丑寅 2-1-34
協和設計 株式会社 小川清貴
TEL : 072-627-9351 / FAX : 072-627-9350 / e-mail : ogawa@kyowask.co.jp

[案内図]



構造懇話会 URL <http://www.kozokonwakai.org/>

第 467 回 構造懇話会 例会での報告概要

1. 『 塩害の要因となる飛来塩分の数値シミュレーションによる評価・予測手法 』

①報告者

明石工業高等専門学校 都市システム工学科 助教 中村文則 氏

②報告内容

海岸近傍に設置された構造物は、海域から発生した飛来塩分が構造物表面に付着することにより、塩害が発生するため構造物の維持管理上において問題となっている。このような飛来塩分は、海域の波浪場から発生し、風によって大気中を輸送されるため、構造物周辺で大気中の塩分量が空間的に一定ではなく、構造物の形状、風の分布、周辺の地形条件によって複雑に変化していることが知られている。そのため、塩害の要因となる飛来塩分を高精度で評価・予測するためには、数値シミュレーションを用いる方法が有効的である。本報告では、飛来塩分の発生から輸送過程とその構造物表面への付着量を数値シミュレーションによって評価・予測する手法について紹介する。

2. 『 橋梁製作における溶接技術の動向 』

①報告者

高田機工株式会社 技術研究所 所長 鷹羽 新二 氏

②報告内容

鋼橋における基本的かつ先端的な生産技術、溶接技術について、過去から現在に至る動向を解説するとともに、今後の技術課題についても取り上げ、研究の現状を紹介する。鋼橋の「製作における工夫」と題して、橋梁製作工場の生産ライン紹介、溶接品質向上のための溶接法開発、Uリブへの部分溶接溶け込み量を非破壊的に計測する方法、溶接条件とその溶接変形量解析に関する研究等を紹介する。また疲労き裂の発生とその対策として、筆者が現場で採取した鋼橋の疲労き裂を示し、調査方法およびその発生メカニズムと補修工法、耐疲労鋼に対する研究について説明する。